死刑は廃止すべきか

大ローマ布教所長
山口　英雄　*Hideo Yamaguchi*

死刑は廃止すべきか

日本で、多くの死傷者を出した「地下鉄サリン事件」（1995年3月20日）の裁判で死刑判決を受けていた麻原彰晃（松本智津夫）以下、多くの死刑囚の死刑が、7月6日と26日に執行された。この死刑執行のニュースはヨーロッパでもいち早く駆け巡った。

ヨーロッパは、特にEU加盟国28カ国は、死刑を廃止している。それゆえに、集中的に行われた日本の死刑執行は大きく取り上げられた。その基本は「人間の尊厳」を守らない行為だというのだ。いかなる犯罪者も最低の「人間の尊厳」を維持しているというのだ。それを他の人間がいたずらに踏みにじり、死刑執行の命を下し、それを執行する者がいるということは恐ろしいことだという。

日本でも「極悪犯人でも5分の魂」を持っていると言うし、「罪を憎んで人を憎まず」というようなことも言われている。一方では、極悪犯人を放置しておくと、次から次へと同じような事件を起こすから「死刑」を求刑する人たちもいる。多くの人の命を奪うのだからその代償を支払うのも当然だという人もいる。「絶対者」の存在を肯定しない日本人の根底には「人間の尊厳」という厳然たる思想が欠如しているように思われる。

世界では、2017年現在、日本を含めて56カ国で死刑を認めている。逆に、正式に死刑を廃止した国は106カ国に及んでいる。中国の統計がうやむやでハッキリしないが、昨年2017年には、世界で、993件の死刑が執行されている。

法王フランチェスコは「教理問答」において、全世界的に死刑廃止を謳っているし、その思想はさらに明確にされ全世界の教会に向かって、死刑廃止の運動を促進するように檄を飛ばしている。ヴァチカンでは、死刑の執行は1870年9月20日まで行われていたし、死刑法は1969年まで存在した。1992年の「教理問答」で死刑廃止を打ち出し、そして、1997年法王ヨハネ・パオロ2世のもと、きっぱりと死刑廃止を宣言。このことは現法王フランチェスコによってもはっきりと宣言されている。いかなる状況であろうと、いかなる極悪非道な犯罪であろうと、その人間にもあくまで「人間の尊厳」というものがそなわっているのだ。どんな国でも「人間の尊厳」は犯すことはできないのだ。最終的には、慈悲を訴える主の忍耐心に鑑みて、犯人もいずれは改心するだろうという時間を銘々に与えているという見解だ。

妊娠中絶を非難

10月10日の法王の一般謁見の席で、法王フランチェスコは妊娠中絶を激しく非難した。法王は謁見の話の中で、聴衆に問いかけているのだ。「あなたがたに問いかけたい。一つの問題を解決するために、人間の生命を投げ出すことは正しいと思うか。」「ノー」という返事を貰いながら法王はさらに聴衆に問いかけた。「一つの問題を解決するために、人殺しを雇うということは正しいか。」この問いにも聴衆の「ノー」の答えを聞きながら、法王はさらに話を続けた。「そういうことはできないことだ。人間の生命を外に放りだすことは正しくないことだ。」「一つの問題を解決するために、いくら小さいといえども殺人者を雇うことは正しくない。」 避妊に関するヴァチカンの立場は世界的に知られているが、「殺人者」という表現には驚かされた。一つの問題を具体的に示せば、胎児の病気、未熟児、ダウン症などのことを表す。「前世紀、ドイツのナチスは人種の純潔性を保とうとして、他の人種を葬り去ろうとしたために、多くの人はそれに抗議を示した。しかし、今、我々は白い手袋をはめて同じことをしているのだ。それは赤子の殺人である。」「弱々しく生まれ、余り歓迎されないような生命体をキリストは探している。ハンディキャップのある子供のところにも出向いている。そして、色々な現象があろうとも、それらを恐れないように励ましているのだ。」「教理問答」の第5番目に「汝殺すべからず」と書いてある。「世界で活発な悪は『生命の軽視』ということだ。」「妊娠中絶は教会にとってはすべて非合法だ。人間はすべての命を大切にすべきだ。すべての人間はキリストの血そのものなのだ。」法王はさらに戦争について、人間の被造物の利用について、貧困について語った。

妊娠中絶に関して、教会法は変わらないだろうが、神父の独身性については何か変化の兆しがあるようだ。10月10日のシノド会議において、ベルギーの神父ジャン・コックロースは、ベルギーの聖職者を代表して、「結婚した若いベルギーの聖職者は、この中に結婚したものがいるかと問われれば、躊躇無く『はい』と直ぐに答えるだろうと発言している。このうねりは、カソリックの東方教会において、緩やかだが、進展している歩みのようだ。

聖母マリアはどんな人だったか

ローマの町には非常に多くの教会がある。その中でも聖母マリアに捧げられた教会は、SANTA MARIA ○○○と名付けられ、その数は70に及ぶ。その中でも良く知られているのが、ローマの四大教会の一つと知られているSANTA MARIA MAGGIORE、古い由来のあるSANTA MARIA IN TRASTEVERE、そして映画「ローマの休日」でその名を世界的に知らしめた「真実の口」のあるSANTA MARIA IN COSMEDINなどであろうか。

フランチェスコ法王は、最近1冊の本を上梓し、聖母マリアに捧げたが、その中に聖母マリアについて書かれた箇所がある。それによると、聖母マリアは生を享けてから神の使いの天使から受胎告知を受けるまで、まったく一般の子供と変わりはなく、普通の子だった。普通に教育を受け、普通に結婚し、家族を設けようとしていた。ただ、聖書が好きで、好んで読み、家庭的なカテキズモを受けている。天使のお告げによって、神の子イエスを妊娠してからは、さらに普通の女になった。誰もが彼女を真似ることができる普通の女になった。彼女の人生におかしなところはない。母としても普通であった。夫を助け、子供を慈しみ育てた。全く普通の女であった。一人の女が一人の子を育てたのだ。キリストの神の子の宣言を聞いたのも一人だったし、神の子キリストが十字架に磔になった時も一人だった。

北朝鮮の金正恩は法王を自国に招待

北朝鮮の金正恩は、ヴァチカンの法王フランチェスコを北朝鮮に招待するという声明を発表した。北朝鮮はヴァチカンと国交がないために韓国の大統領文在寅に招待状を委託した。文大統領は、10月18日特別謁見の許可を貰い、夫妻で法王に謁見した。謁見時間は35分だった。冒頭、大統領は朝鮮のトップとしてやって来たこと、自分がカソリック教徒で洗礼名はティモテオであることを述べたうえで、謁見は非常に光栄であり、法王が教会の長であるだけでなく、全人類の師でもあると発言した。法王は「貴方は平和のために働いている。」と応答した。大統領は法王に北朝鮮の金正恩の招待状を手渡した。法王は北朝鮮を訪問する用意はあるとの声明を発表している。